

翔通信 11, 12月号

2018年11月1日
泉第2チェリーこども園

幼稚園部分の受付が11月1日、本行われました。当園も徐々にこども園として認知されるようになり、こども園が幼稚園と保育所二つの機能を併せ持っているということが理解されてきているようです。全ての家庭、子ども、誰もが選ぶことのできる“こども園”がどんどん増えていくことを願って止みませんが、はたして…

さて、年も暮れを意識する季節となり、秋から冬に気配が変わろうとしています。猛暑、酷暑が続いた今年の夏でしたが、その影響やいかに？

子どもたちには春夏秋冬、季節ならではの楽しみを感じさせてあげたいものですね！すっかり寒くなってまいりましたが、風邪などひかれませんようお身体に気を付けてお過ごしください。

トピック

- マルシェ in こども園 2018 シーズン終了
- 地域の人や近隣園との日常的な連携が必要
- 早期からの教育格差の是正など提言

●マルシェ in こども園 2018 シーズン終了

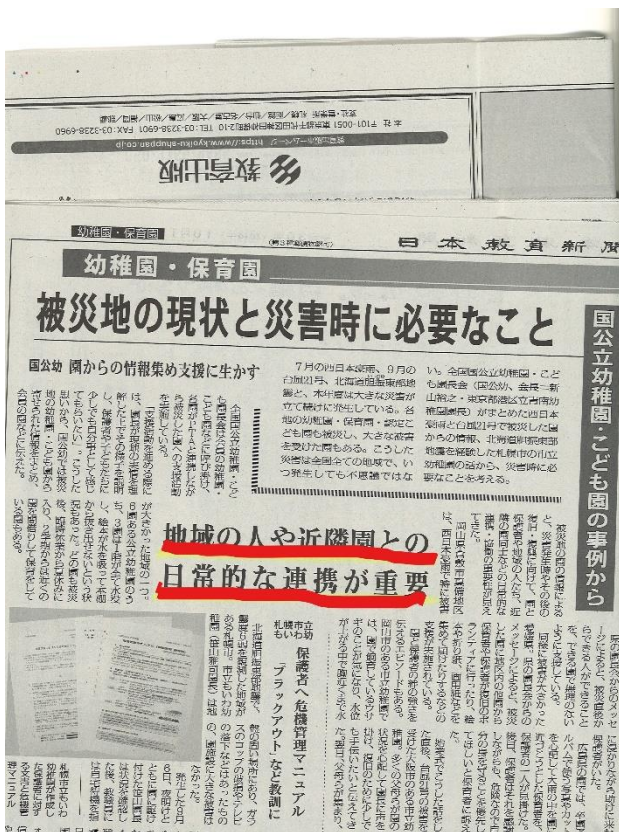
今年度のマルシェ in こども園も 10月20日の回をもって無事終了いたしました。

初夏、秋と2回実施いたしましたがいずれも地域で活躍するたくさんの子育て理解者の方々にご出店いただき、また在園のご家庭をはじめたくさんの方々にご来場いただきました。実施する我々も主催でありながら純粋にマルシェを楽しみ、たくさんの方と繋がることができ貴重な時間を過ごすことが出来ました。また来年度も続けていけたらと考えています！

たくさんのご理解、ご協力、ご来場、ありがとうございました！



●地域の人や近隣園との日常的な連携が必要



被災からの教訓として地域の連携や協力の必要性を再確認し、それは日頃からの積み重ねであることが記事として書かれています。東日本大震災を経験した私たちとしては当たり前のこととして理解できます。しかし、震災以降私たちは日常的な事として地域や人、地域資源（施設）などが互いに関わり、連携しあうアクションを起こせているでしょうか？震災以前と何か変わったでしょうか？今年は被災された人や地域が非常に多く痛ましいニュースも多く耳にしました。そんな年だからこそもう一度教訓から何ができるのか考えていきたいですね。

当園の場所貸し事業やマルシェ事業も掲げている目的こそ違いますが、地域に開かれ、地域との日常的な連携の一端でありたいと思います。

●早期からの教育格差の是正など提言

“早期の教育”と聞くと、さも早い段階から就学後の教科教育やドリル、ピアノレッスンや英語の習得など連想してしまいがちですが、決してそうではありません。2種の記事どちらでも同じことを言っていますが、「学びに向かう力」を育てるべき時期が“早期”つまり乳幼児期であるということです。先に挙げたような教科教育などの“認知能力”ではなく“幅広い力や姿勢を含む”非認知能力”を育むことの大切さが提言されています。ここではそれが最も“社会的利益”を生むとされていますが、一人ひとりの生涯における“最善の利益”も、こうした教育によって得られていくのではないかと思います。



参考

日本教育新聞

ベネッセ教育総合研究所「これからの幼児教育」

●11月の予定

- 1日(木) 1号認定願書受付・面接
- 5日(月) 手洗い指導(つる)
- 6日(火) 手洗い指導(きじ)
- 7日(水) ヒロト体育教室
- 8日(木) 歯科健診 内科健診
- 9日(金) 音楽教室
- 13日(火) 焼き芋会
- 15日(木) 手洗い指導(ほと)
- 16日(金) るるぶるロックンロール教室
- 17日(土) 避難訓練
- 21日(水) 誕生会
- 29日(木) 歯科健診(再)
- 30日(金) 発表会総練習

※年間予定、及び追加予定については登降園打刻タブレットに、その予定の2週間前に表示されます。一覧と併せてご活用ください。